事例No.	2797
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	長崎県波佐見町

事例区分	地域活性化

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・観光 ・関係人口

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

波佐見町地域内循環の取り組み

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

優秀賞



波佐見町地域内循環の取り組み

長崎県波佐見町（はさみちょう）

DATA

事　　例　名：波佐見町地域内循環の取り組み
所　　在　地：長崎県波佐見町全域
連　　絡　先：TEL 0956-85-2111
　　FAX 0956-85-5581
　　E-mail shoukou@town.hasami.lg.jp
ホームページ：https://www.town.hasami.lg.jp

取り組みの概要

波佐見焼の産地・波佐見町では、やきものの生産過程で廃棄される使用済み石膏型を、長年、埋立処分していたが、処理場からの受け入れ拒否をきっかけに地域内で循環できるリサイクルの手法を模索、環境負荷の軽減を目指して資源の有効活用の研究と実証実験を重ね、農地への肥料や建築材としての再利用につなげた。また、この肥料を使用した農作物と波佐見焼を用いて開発した「陶箱クッキー」は、リサイクルの取り組みを牽引し、産地のイメージアップに貢献するなど、波佐見町のまちづくりにおける象徴的な商品となっている。

評価された点

- やきものの生産過程で発生する使用済み石膏型を再利用する方法を長年かけて見いだし、経済的にも自立させている試みは特筆に値する。
- 産業の集積地が環境負荷の軽減を意識し、実践することのインパクトは大きい。
- 地場産業を軸にした資源循環と経済循環の仕組みを構築している点を評価。
- 使えなくなったものを地域のためのさまざまなプラスに変える素晴らしい事業であり、SDGsや地域活性化の側面で、他地域においても参考になる取り組みである。
- 処理場からの受入拒否という「制約」をイノベーションにつなげた事例として高く評価。「制約」があるところからイノベーションが生まれることを周知する良い事例である。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ1　1999年3月

石膏型を埋め立てていた町営の最終処分場が満杯になり、閉鎖

・新たな最終処分場建設を模索したが、多額の建設費、場所の選定、環境に対する時代背景などの問題があり断念。従来の埋め立て方式を見直し、リサイクル化に向けて動き出したが、廃棄物を安価で分別なく埋め立て処分できる処理事業者が現れ、多くの排出事業者が埋め立て処分に流されることでリサイクルの機運がしぼんでしまう。

きっかけ2　2017年3月

長崎県の最終処分場が波佐見町の石膏型の受け入れ拒否

・その結果、町内にある中間処理施設に、行き場を失った石膏型や陶磁器くずなどが滞留して山積みに。石膏型の処分問題が再び急務となり、波佐見町商工観光課が動き出します。

・問題が表面化。

・財団から2/3の支援を受ける。

2019年～

使用済み石膏型のリサイクルに向けて本格始動!

・波佐見町が申請した「地域循環モデル構築をベースとした地域価値創造事業」が、ふるさと財団の「地域再生マネージャー事業（外部専門家活用助成）」に採択され、リサイクル分野と食分野の2人の専門家を招へい。波佐見町のさまざまな関係者を巻き込んだ事業が開始される。



・毎週土曜日9時の販売開始から5分で売切れるなど人気商品に!

2020年～

地域内循環型商品「波佐見陶箱クッキー」販売開始!

・石膏型を粉末化し土壌改良剤として農地に再利用して米粉専用米を栽培。最新機械で製粉された米粉を鬼木加工センターがクッキーに加工し、波佐見焼の陶箱に詰めた商品が大ヒット。数々の賞を受賞し、波佐見町の取り組みを牽引している。



・リサイクルに向けて大きく前進!

2022年7月～

埋め立てよりもリサイクル費用が安価に!

・県内のリサイクル会社に電力会社のフライアッシュが納入されることで収益性が改善。結果、関連する波佐見町の石膏型の処分費が抑えられ、町の排出事業者にとってリサイクル化への最大の足かせになっていた費用負担の問題が大きく前進。

・農水省から普通肥料として認可。

2023年2月～

リサイクル石膏がJIS規格に沿った建築基準の試験をクリア

・リサイクル石膏が建物の内外装に建築資材として使用することが可能に。2023年秋に完成予定の波佐見町役場の新庁舎にも採用される。

2023年3月～

リサイクル石膏の農業用肥料登録が実現!

・実証実験で、じゃがいも、キャベツ、稲への有効性を検証してきたリサイクル石膏。副産肥料としての普及の他、農作物の高付加価値化によるブランド化などが期待される。



今後の展望

・副産石膏肥料の製造・販売の本格始動。
・「八三三米（はさみまい）くらわんかセット」の「ふるさと納税」などでのPR。
・陶箱クッキー第2弾の開発。
・サスティナブルイベントの継続及び充実 。

受賞者のコメント

波佐見町の産業と環境を守るため、悩みながらも少しずつ歩を進めてきた取り組みがこのような評価をいただき、感謝申し上げます。
自治体表彰枠での応募でしたが、多くの地域の皆さんと一緒に作り上げた「オール波佐見」で頂いた賞だと思っています。

今後も波佐見町は官民一体となって、花を咲かせ実を結ぶ、持続可能な取り組みとして前に進めてまいります。
波佐見焼とあたたかなもてなしに触れに、波佐見町にぜひお越しください。